のり生産をささえる 私たちの活動

野間漁業協同組合婦人部
部　長　　山田いつ代

1　地域の概要

私たちの住む美浜町は知多半島の南部に位置し、東は三河湾、西は伊勢湾に面した、人口２万５千人程の町です。古くから漁業や農業、観光業が盛んです。

2　漁業の概要

野間地区は伊勢湾に面し、２００５年に開港が予定されている中部国際空港のすぐ南に位置しています。上野間、奥田、野間、小野浦の四つの地区が一つにまとまり野間漁協となっています。

古くから沿岸漁業が盛んで、のり養殖、刺し網、定置網漁、小型底引等の漁業が営まれ、特にのり養殖は地元の基幹産業として発展してきました。

鈴鹿の山々から吹き下ろす冷たい北風と、木曽三川から受ける栄養塩豊富な浜で収穫されるのりは、主に寿司のりとして高い評価を受けてきました。

3　組織と運営

野間漁協婦人部は昭和５３年に設立されました。現在部員数１１５名で、１０地区より各１名の役員を選出し、２年の任期を努めます。

活動はのり製品向上研修、視察研修、魚食普及を兼ねた料理講習会、海浜清掃、わかしお天然石けんの共同購入、海難遺児への募金運動等です。

4　研究課題選定の理由

野間漁協はのり養殖が主体です。

近年、生産・加工技術、設備が向上し、生産枚数は比較的安定しているものの、単価は今ひとつと言った状況が続いています。さらに昨今の環境問題にもれず、近海や浜辺にはゴミ等が年々多くなってきました。このため、「製品への異物混入防止」は、のり養殖で生計を立てている私たちの、最大の課題となっています。

また、後継者不足等から夫婦２人で仕事をする家が多くなってきました。

野間漁協では、女性も海に出て男性と同様に仕事をします。そして乾燥作業も担っています。このため、繁忙期の家事、特に『食事づくり』は短時間にこなさなければならず、子供や高齢者を抱える主婦にとって、大きな負担となっています。

そこで私たちは、少しでもこれらの課題を解決し、品質の高いのり生産を支えていくための活動に取り組みました。

5　実践活動状況

（1）のりへの異物混入防止で高品質保持

ア　作業着の工夫で衛生管理

のりの摘み取りは、異物となるゴミ、海老、海草等が入らないように十分注意して摘み

取ります。
その後急いで家に持ち帰り、攪拌水槽に入れ、抄き作業をします。
製品となるまで、一つ一つの行程において、異物が入らないように細心の注意を払います。さらに、組合の出荷場において、組合員総出で、出荷作業をします。
のりはそのまま口にする食品として、これらの、どの行程においても異物が入ることは許されません。
婦人部へのアンケート調査では、海苔の乾燥・荷造り作業を行うときの服装は次のようでした。
頭部は特に何も付けないが５６％、上半身はエプロンと割烹着で７７％。
下半身は作業ズボンが５２％でした。また、組合の出荷場でも頭部は手ぬぐいや三角巾などまちまちの服装となっていました。
このため、私達は、髪の毛等、最も異物の原因となりやすい頭部の作業衣を工夫することにしました。以前にも三角巾等を作成・着用してきましたが、異物を防ぎきることはなかなか困難でした。そこで今回は、いくつかの作業用帽子を比較し、頭をすっぽり包む帽子を作成することにしました。
役員で話し合ったところ、「役員だけが帽子をかぶっても、会員みんなが注意しなければ異物を防ぐことは難しい。それなら婦人部員全員 １１５名分を作成しよう」ということになりました。　清潔感・明るさを第一に布地を選び、のり作業の比較的暇な夏に、役員１０名が気心を合わせ、延べ４日間をかけて流れ作業で作成しました。
「どうしてここまでするの？」と言う声もありましたが、でき上がった帽子を身につけて、組合の出荷場で作業をすると すごく感じがいいのです。いつもの作業場がぐっと明るくなりました。婦人部の活動に刺激を受け、組合は、男性には白の帽子を導入しました。このため、今までにもまして、出荷場全体に清潔感があふれました。さらに家庭の作業場で帽子を活用していくために、各家庭の「作業衣のモデル」を考えました。
頭部は作成した作業用帽子。
エプロンは手持ちのもので、身体全体を包む飾りの少ない物、そして作業ズボン。
素材は毛羽立ちの少ないもの、明るい色のもの、を心がけることにしました。
こうした活動の結果、　帽子が使いやすいとする人は８７％、
組合の出荷場では全員が帽子をかぶるようになりました。さらに、帽子が
ノリ製品への異物混入防止に役だっているが６５％、
ノリ製品へのイメージアップができたが５１％、
作業着について以前より気をつけているが４２％　となりました。
もちろん作業衣だけで、異物混入は防げませんが、帽子をきっかけにして、ノリの品質向上にむけ、衛生管理が徹底されるようになってきました。
「のりは食品」という意識で常に接し、のりを取り扱う私達は、清潔な作業着を身につけ、品質の高い「のり」を生産したいと思います。
イ　環境美化で異物混入防止
海の汚染やゴミは、のりに大きなダメージを与えます。
浜の状況を見ると、散乱するゴミでいっぱいです。買い物袋や空き缶、流木など、ゴミの量は、増えることはあっても減ることはありません。さらに、家庭雑排水等による近海

の汚染も年々進んでいます。

このため、ノリの生産の時はもちろん、潮干狩りの時、海水浴の前等、浜掃除を年数回実施して、浜辺のゴミが少しでも減るように、環境美化に組合をあげて取り組んでいます。

また、海辺に住む私達は海水が汚染されないように、できるだけ天然石鹸を利用したり、食べ残しや油汚れを流して海水が汚染されないように気をつけています。

そして、浜を美しくするため、中学生の絵や標語を浜に掲示して、海に来る多くの人達の注意を喚起しています。

さらに私達は、昨今話題の植物「ケナフ」を育て、地域の人たちの協力を得て「ケナフのすみ」を作りました。ケナフは成長時に、大量の二酸化炭素を吸収する他、水中の窒素やリンを吸収して、水質浄化の効果もあり、ケナフを栽培するだけでも環境浄化に効果があるとされています。ケナフを育てたことは、私達の回りの環境について見直す良い機会となりました。

これからも浜を中心とした環境の保全と美化に努めていきたいと思います。

（2）健康でノリ繁忙期を乗り切る献立の工夫

ノリの繁忙期は１０月から翌年３月までの６ヶ月間、およそ半年続きます。

野間漁協では、女性もノリの収穫から乾燥・製品まで、男性と同様に作業をしています。女性の労働なくしてノリの生産は成り立ちません。このため女性が家事に従事できるのは、のりの抄き始めから、乾燥されたのりがでてくるまでの２時間です。

この間に　時計とにらめっこで買い物、炊事、洗濯、子供や家庭の用事を済ませ、乾燥したのりがでてくる頃には、乾燥室に入り、選別や結束作業をします。

子供や高齢者をかかえた主婦達にとって繁忙期の家事、特に食事作りはいつも大きな悩みであり、負担でした。

婦人部全戸への調査では、６割の家庭が主婦１人で食事作りを担当していました。
この時期、食事作りにかけられる時間は、朝食と昼食が３０分以下、夕食で３０分から１時間でした。

また食事づくりで困っていることは、時間がない、献立を考えるのが面倒、の２項目で５０％を占めていました。

そこで、健康で繁忙期を乗り切るために、忙しい時期の献立作りをしました。

役員がもてる限りの知恵を絞り、アンケート調査や婦人部員の意見も参考に、一週間分の献立を４種類、約１ヶ月分を作成しました。

特に、繁忙期に利用しやすい献立となるよう、次のような工夫をしました。

ア、短時間で食事作りができるように、日頃我が家でよく作る献立を活用する。

イ、時間のかけられる夕食には次の日の昼食や朝食に利用できる献立を取り入れる。

ウ、簡単な食事になりがちなため、栄養のバランスを考慮する。

エ、我が家にたくさんあるノリや常備菜を工夫し活用する。

作成した献立例を紹介したいと思います。

夜のすき焼きは翌日の昼にはすき焼きうどんにしています。

次は、夜のカレーを昼にはカツカレーにしたものです。いずれもビタミンやカルシュウムが不足しないように配慮しています。また、自家製の保存食であるノリのふりかけや佃煮を活用してバラエティーを増やしています。

作成した献立表は婦人部員全戸に配布しました。

配布された献立を台所の壁に貼るようにしたところ、部員さんから「疲れてくると献立を考えるのも面倒だけれど、献立表があると参考にできてとても便利！」と好評です。

また婦人部では、毎年、魚食普及を兼ねた料理講習会を実施して、のりや近海でとれる魚介類の食べ方の、工夫を重ね、冊子を作成して普及を図っています。

6　波及効果

異物混入を防ぐための作業帽子の作成は、組合員全体の作業に対する衛生管理意識の 向上につながったほか、全員が身につけることによって、品質向上に対する大きなアピールとなりました。また、献立の工夫による主婦の家事労働軽減対策は、生産者を取り巻く家族が健康で、繁忙期を乗り切る対策ができました。

組合では、贈答用の味付けのりを扱うようになりましたが、高品質の「のり」は年末には、在庫が無くなる程地域からの注文があり、「野間の のり」として好評を得ています。

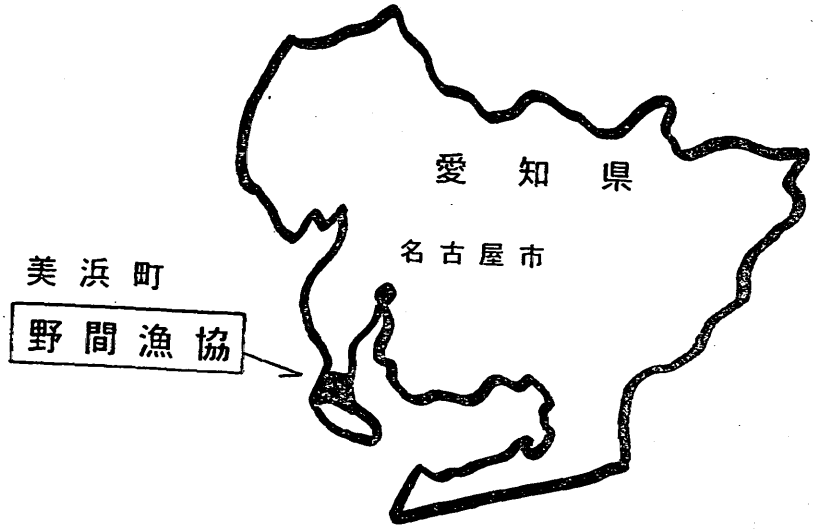
7　今後の課題

のりの生産に関する課題への取り組みで、身近な問題を見直すことができました。
そして、品質の高いのり生産への努力や、おいしい「のり」を、もっとアピールしていくことが必要だと思いました。

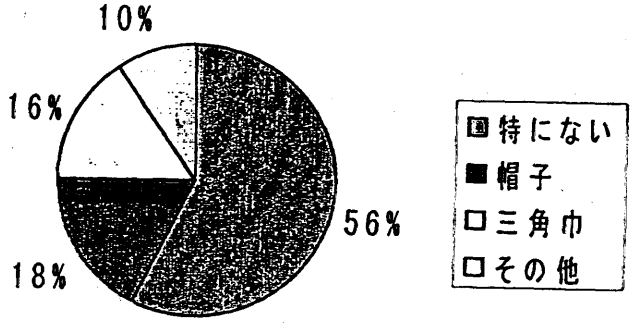
また、美しい海や浜辺を　ずっと残せるよう　多くの人達の理解を求めていくこともこれからの課題です。

大都市名古屋の近郊に残された、数少ない遠浅の美しい浜と、美味しいのり生産がいつまでも続けられたら、すばらしいと思います。

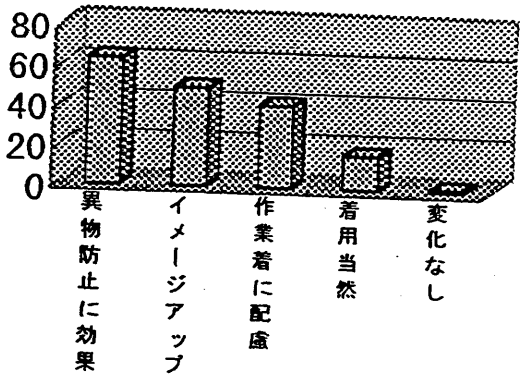
私達の努めとして、今後も努力していきたいと思います。



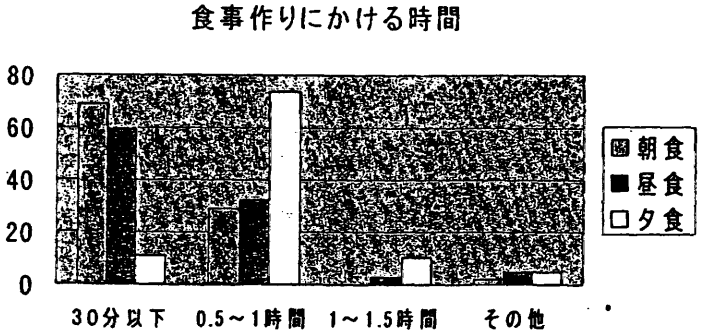
図－１　野間漁協の位置図



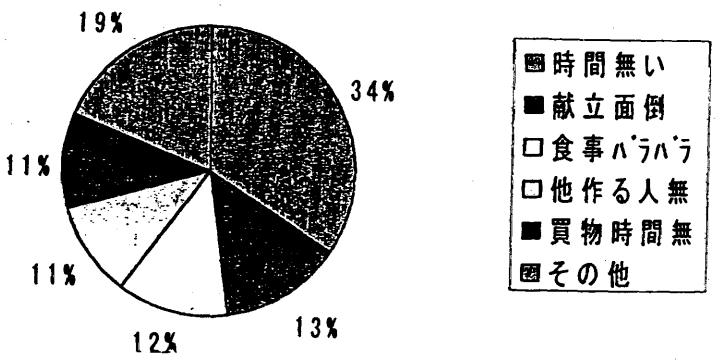
図－２　のり作業時の服装（頭部）



図－３　帽子着用による効果



図－４　食事づくりにかける時間



図－５　食事づくりで困っていること